

船舶事故調査報告書

平成25年5月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年10月21日 17時00分ごろ
発生場所	長崎県平戸市 ^{あづちおおしま} 的山大島北岸 平戸市所在の的山大島港 ^{こうのうら} 神ノ浦防波堤灯台から真方位000°4, 100m付近 (概位 北緯33°30.7' 東経129°33.4')
事故調査の経過	平成25年1月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{けいしゅう} 啓將丸、19トン NS2-13921（漁船登録番号）、明星水産有限会社 19.15m (Lr) × 4.64m × 1.76m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数190、平成3年10月22日
乗組員等に関する情報	船長 男性 49歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和59年4月19日 免許証交付日 平成20年10月15日 (平成26年4月18日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	プロペラの曲損、舵の脱落
事故の経過	本船は、船長及び甲板員2人が乗り組み、長崎県松浦市 ^{つきのかわ} 調川港を出港し、的山大島西北西方約20海里の漁場に向かった。 本船は、船長が単独で操船に当たり、約9～10ノットの対地速力とし、手動操舵によりの ^{おおが} 的山大島東岸の大賀鼻沖から同島北岸の長崎鼻沖に向けて西北西進中、船団のもう1隻の運搬船が本船の約30分前に調川港を出港しており、先行する運搬船に少しでも追い付こうと思い、大賀鼻や長崎鼻などの陸岸に寄って航行し、平成24年10月21日17時00分ごろ長崎鼻北方沖の浅所に乗り揚げた。 船長は、長崎鼻沖の浅瀬の存在を知っていたが、いつものコースより少しぐらい陸寄りを航行しても大丈夫だと思っていた。 船長は、GPSプロッターを表示していたが、広範囲が表示される画面に設定しており、等深線が表示されず、本事故当時は周囲も明る

	<p>かったことから、目視により、見張りを行って操船していた。</p> <p>本船は、航行不能となり、船長が先行していた僚船に連絡を取り、僚船にえい航されて的山大島馬込^{うまごめ}鼻沖で錨泊し、翌朝、別の僚船に長崎県佐世保市相浦^{あいのうら}港の造船所へえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>長崎鼻沖は、北方から北西方沖にかけて遠浅となっており、北方沖は約400mにわたり浅所が拡延している。</p> <p>甲板員2人は、網船から水揚げ作業の応援として本船に乗船しており、本事故当時、操舵室後方下部と船員室でそれぞれ休息をとっていた。</p> <p>本事故当時の本船の喫水は、船首約1.0m、船尾約2.2mであった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、的山大島東岸の大賀鼻沖から同島北岸の長崎鼻沖に向けて西北西進中、船長が、先行する運搬船に追い付こうと思い、いつもより長崎鼻寄りに航行していたことから、長崎鼻北方沖の浅瀬に向けて航行し、浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、的山大島東岸の大賀鼻沖から同島北岸の長崎鼻沖に向けて西北西進中、船長が、先行する運搬船に追い付こうと思い、いつもより長崎鼻寄りに航行したため、長崎鼻北方沖の浅瀬に向けて航行し、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸岸に接近して航行する場合は、レーダーやGPSプロッターを活用し、船位を確認しながら航行すること。